

幸南の風



令和4年10月7日

校長 伊藤 公一

第10号

1学期終業式の話 10月7日(金)

1年生が入学して、ちょうど6か月が経ちました。今日で、1学期が終わります。そして、今年も残り3ヶ月を切りました。今日は、コロナが流行り始めて、初めて全員が体育館に集まったの終業式になりました。みんな揃ったので校長先生はとてもうれしいです。

さて、ものごとには自分で決められることと自分で決められないことがあります。自分で決められることと自分で決められないことを比べると、実は自分で決められないことの方が圧倒的に多いのです。例えば、秋休み1日目の明日の天気はどうでしょうか。自分で決めることはできませんね。でも、明日算数の勉強をする。しっかり手を洗う、などは自分で決めることができます。自分で決められないで悩むより、自分でできることに意識を向けて頑張っていく。このことが大事です。

2つ目の話は「言葉」についてです。皆さんが毎日何気なく使っている言葉は、そのときの「ころ」が出ます。だから、言葉の端端には「ころ」が見えるのです。

たとえば皆さんが名前を呼ばれたときの「はい」という返事一つにも、そのときの声の抑揚や大きさによって「ころ」が相手の人に伝わるものです。皆さんは、キャッチボールやドッジボールをしたことはありますね。キャッチボールは相手の受け取りやすいところに投げます。逆にドッジボールは、相手に投げて当てるとアウトになります。ボールを言葉に直すと、キャッチボールになれば相手の人にとっては受け取りやすい、思いやりを含んだ言葉となって伝わり、相手との仲はさらに良くなります。

しかし、ドッジボールになってしまうと、相手に言葉のボールをぶつけて、やっつけてしまおうという心が働き、結果的に傷つけることになります。皆さんの言葉を友達がキャッチボールと受け止めて信頼感を高めるか、ドッジボールと感じて心を閉ざしてしまうか、言葉や表情より受け止め方が違ってきます。

言葉は便利ですが、気付かないうちに相手の心を突き刺す「とげ」になっていないか考えることが必要です。特に、思うようにことが進まずむしゃくしゃしているときやいらいらしている時など、つい友達やお家の人を傷つける言葉を発してしまうことがあるので、注意しなければいけません。まして、友達を意図的に傷つける言葉は「いじめ」になります。言葉は生きています。言葉は時には人を救い、また人を傷つけ、時には人を喜ばせ、また人を悲しませる不思議な魔力をもっています。皆さん、言葉を大切に使ってください。

今日は、これから担任の先生から通信票をいただきます。皆さんが、この1学期にどれだけ頑張ったかが載っています。1学期頑張ったことに自信を持ち、十分にできなかったところは、2学期からもっとよくなるように頑張ってほしいと思います。

最後に、明日から実質5日間の秋休みになります。楽しい秋休みにすることと、気を付けて安全に過ごしてほしいなあと思います。来週の木曜日、元気に登校してください。